

【習得している知識・技能等】

- ・共通点や相違点を整理しながら聞くこと
- ・理由を付けて発言すること

本単元の学習を通して育てたい力

- 司会者、参加者それぞれの役割に応じた話合いの仕方を理解し、進行に沿って話し合うことができる。

◇ 学年 第4学年

◇ 単元名 司会の仕方を工夫し、話合い名人になろう

◇ 単元の目標

- ・話し合って課題を解決したいという意欲をもち、役割を分担しながら、意見を整理したり、自分の考えを発言したりすることができる。(関・意・態)
- ・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会等の役割を果たしながら、進行に沿って話し合うことができる。(話すこと・聞くこと オ)
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(伝・国 イ(ア))

◇ 設定した言語活動 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。(言語活動例 イ)

◇ 単元の展開(4時間目/全6時間)

次	時	主な学習活動
一	1	・これまでの学級全体やグループでの話合いの様子を録画した映像を視聴し、話合いの仕方についての課題意識をもたせる。 ・学習課題を設定し、学習計画を立て、学級やグループで話し合いたい話題を出し合う。
二	2～4	・教材を使って、司会の進め方、参加者の意見の述べ方をつかむ。 ・学級全体で話し合う話題を確認し、役割を分担し、学級全体で話し合う。 ・話合いのビデオ記録を再生しながら、話合いの仕方を振り返る。(本時4/6)
三	5・6	・2つのグループに分かれ、話し合う。 ・話合いを振り返り、学習のまとめをする。 ※学校生活や他教科等で話合いの場を意図的に設定し、確実な習得を図る。

《本単元での活用とは》
第二次では、教材文や話合いのビデオ記録を使って、役割に応じた話合いの仕方を理解させる。
第三次では、実際に話し合う学習を設定し、第二次で学習した司会の進め方、参加者の意見の述べ方を確実に身に付けさせる。

◇ 本時の目標 話合いのビデオ記録を再生しながら、話合いの仕方を振り返ることを通して、司会者や参加者、それぞれの役割に応じた話合いの仕方を工夫することができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)	評価規準【観点】 (評価方法)
1 課題意識をもたせる。	◇第一次で立てた学習計画を基に、話合い名人に近づいているか振り返り、本時の学習の目的意識とやる気をもたせる。	単元全体の見通しと、課題意識、課題の解決方法を持たせましょう。
2 本時のめあてを確認する。 話合いのビデオを見ながら話合いの仕方を振り返り、もっと上手な司会者や参加者になるための工夫をまとめよう。		
3 話合いのビデオ記録を見る。 ・良かった点や問題点を付箋にメモしながらビデオを見る。	◇全体を2グループに分け、司会者、参加者それぞれの立場に絞って分担して見るようにする。 ◇ビデオを見ながら、気付きのポイントのみ簡単に付箋にメモさせる。 ◇気付きが不十分な児童が多ければ、再度ビデオを見る。 ◆事前に学習している司会の進め方や参加者の意見の述べ方を思い出させる。	★これまでの学習を通して、話合い名人に近づいていることを意識させることで、本時の学習をする必要感ややる気を持たせることができます。
4 役割(司会者、参加者)ごとに良かった点や問題点を出し合い、改善点について話し合う。 「参加者のポイント」 ①共通点や相違点を整理しながら聞き、前の人の意見と比べて発言する。 ②他の人の意見について、賛成か反対かを理由を付けて発言する。 「司会のポイント」 ①議題を確かめる。 ②発言を促す。 ③話題がそれたら元にもどす。 ④意見の要点をつかんで伝える。 ⑤意見を整理してまとめる。 ⑥決まったことを確かめる。 ⑦時間配分を考える。	◇ビデオを再生しながら、良かった点や問題点を具体的に確認しながら出し合えるようにする。 ◇出た意見を、話合いの流れに沿って役割ごとに板書することで、話合いのポイントを可視化できるようにする。 ◇改善点については、具体的にどのように発言したら良かったのかまで考えさせる。 ◇担当でない立場についても、気付きがあれば発言するように促す。	「司会のポイント」に沿って振り返らせましょう。 ★実際の話合いの場面で振り返らせることで、司会の具体的な言い方を身に付けることができます。
5 話し合って気付いた役割ごとの工夫をまとめる。 児童のまとめ例 ・司会者は、話合いの途中で、みんなから出てきた意見をかんたんにまとめて分かりやすく示すと話合いがまとまりやすくなるのが分かった。でも、そのためには司会者は、みんなの意見をメモしたりするなどして、よく聞かないといけないと思った。 ・参加者は、発言する前に他の人の意見に賛成か反対かを言ってから、そう考えた理由を付けて発言するとみんなによく伝わるということが分かった。	◇それぞれの役割ごとに一番大事だと思う工夫から書くようにさせる。 ◆板書を参考にさせる。	・司会者や参加者それぞれの役割に応じた話合いの仕方を工夫している。[話す・聞く能力] (ワークシート)
6 本時を振り返り、次時につなげる。	◇本時の学び方を振り返らせ、次時は、別の話題でグループごとに話し合うことを伝える。	

